



福寿草

八王子市立第三・第四・第十・大和田小学校

放課後の子ども教室 囲碁教室だより

65号 2022年2月

編集 成田 滋 shigerunarita@gmail.com

ブログ <https://naritas.jp/wp1/>

八王子囲碁連盟 <https://hachigoren.com>



2～3月の放課後の子ども囲碁教室は中止します。

4月からの予定です。

第三小学校：4月14日、21日、28日 2時30分～ 四階 家庭科室

第四小学校：4月11日、18日、25日 2時30分～ 三階 ひらめき教室

第十小学校：4月15日、22日 2時30分～ 一階 家庭科室

大和田小学校：4月13日、20日、27日 2時30分～ 二階 第二音楽室

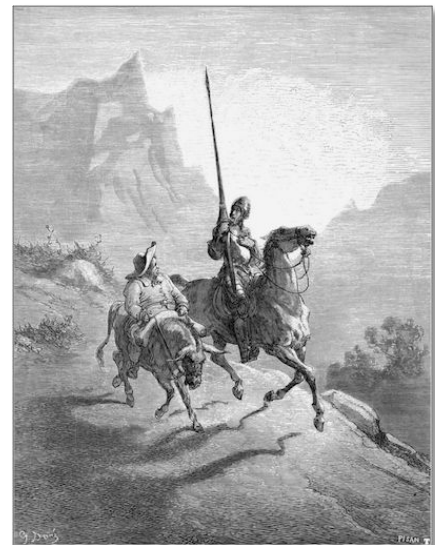
◆子どもに読み聞かせたい本 その5 『ドン・キホーテ』

スペインの作家ミゲル・デ・セルバンテスの小説です。主人公アロンソ・キハーノは、騎士道本にのめり込み、夢中で読み続けます。そしてある日理性を失い、とある妄想に憑りつかれるのです。それは騎士道本に描かれた世界はかつて実在し、16～17世紀の現代に復活させ、理想の世界を実現させるというものでした。この考えに憑りつかれたアロンソは自らを騎士ドン・キホーテと名乗り、痩せ馬のロシナンテにのって遍歴の旅へと出発するのです。

途中で農夫サンチョ・パンサを従士として連れていくことにします。サンチョ・パンサは無学なのですが、様々な諺をひいたり機智に富んだ言い回しをして、奇行を繰り返すドン・キホーテに何度も現実的な忠告をしますが、大抵は聞き入れられません。あげくは主人とともにひどい災難に見舞われるのです。

ドン・キホーテはありもしない世界を現実のものと思い込み、さらにそれを自分が実際に行えると信じ込んで冒険の旅に出るのです。ドン・キホーテはあるとき風車を巨人と信じ込み突撃します。彼の眼には風車が本当に巨人として見えていたのです。突撃したドン・キホーテは、風車の羽に突き刺した槍ごと吹っ飛ばされ宙を舞い、地面に叩きつけられてしまいます。それを見た従士のサンチョ・パンサは「やれやれ、なんてこった！」と呆れるのです。ですがドン・キホーテは次のように言い返すのです。

「わしから巨人退治の榮譽を奪うために魔法使いめが巨人を風車に変えおったにちがいない」。



ドン・キホーテは間違えて突撃したのではありません。彼は巨人だと本当に信じていたし、そう見えていたのです。「信じれば見える世界が変わってくる。」と言いたかったのでしょうか。自分は絶対見た、あるいは見なかったと思っていたことが他人からは違った見方となり、あげくは衝突し言い争いになります。「言った言わない論争」も同じ原理です。つまり目に見えている世界は唯一の現実ではない、ということらしいです。みずからが遍歴の騎士となって世の中の不正を正す旅に出るべきだと考えたドン・キホーテは、決して狂気に囚われた人間ではなかったのです。